

京都大学情報環境機構広報誌「Info!」

2021.3.15 No.21

Info!

Contents

お詫び	2
[KULASIS:教員ユーザ向け] 担当授業スケジュールのCSVファイル出力が可能になりました。	3
ハウジングサービス利用申請の電子化の取り組みについて	4
WEBホスティングサービス・タイプSの利用者からの声	6
大学ICT推進協議会(AXIES)2020年度年次大会に出展しました	9
京都大学全学情報システム利用者 パスワードガイドラインの改定について	11
2021年度「新入生ガイダンス」実施案内	12
2021年3月に卒業や修了、異動や退職時の 全学アカウント及び全学メールについて	14
コラム「グローバルIPアドレスって何? KUINS-II で注意すべきこと」	16

お詫び

すでに1月26日付で「学生・教職員の個人情報外部から閲覧・取得できる状態にあったことについて」として本学の Web サイトに掲載しましたように、2020 年度に情報環境機構が構築した認証システムにおいて、暗号化されたパスワードを含む学生・教職員の個人情報外部から閲覧・取得できる状態であったことが2021年1月4日に判明いたしました。直ちにアクセス制限に関する対策を講じるとともに、本学の学生・教職員の皆様には安全対策としてパスワードの変更にご協力をいただきました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

約半年間にわたり、このような状態が続き、その後の対応も含めて、関係の皆さまにご心配とご迷惑をおかけしたことについて深くお詫び申し上げます。また、関係の皆さまには詳しい説明のないまま、報道が先行したことにより、更なるご心配をおかけしたことについて重ねてお詫び申し上げます。

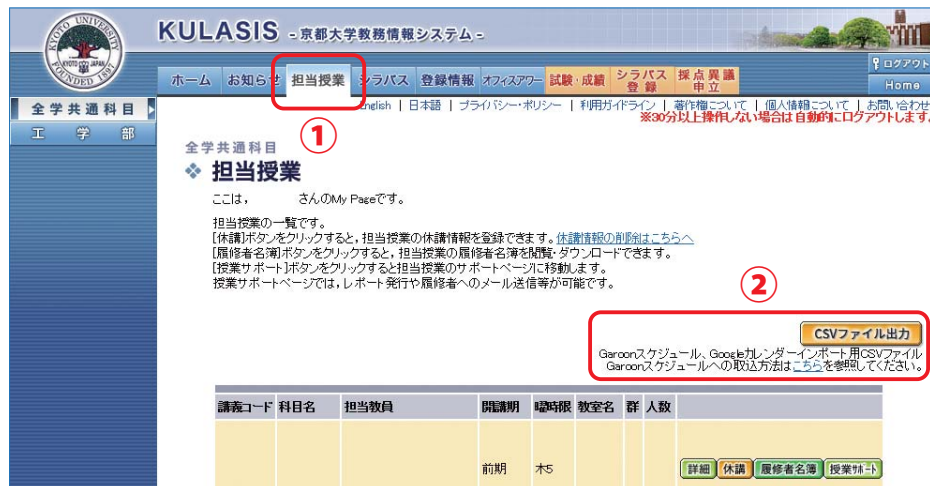
今後、このような問題が発生しないよう情報セキュリティに関する体制を強化し、再発防止に努めてまいります。

2021 年 3 月 15 日
情報環境機構長 喜多 一

サービス紹介

[KULASIS: 教員ユーザ向け] 担当授業スケジュールのCSVファイル出力が可能になりました。

KULASISに登録されている担当授業スケジュール（集中講義除く）をCSVファイル形式で出力し、京都大学教職員グループウェア（Garoon）やGoogleカレンダーに一括取込みすることが可能です。



【出力ファイル定義】ファイル名: [職員番号]_Schedule_yyyymmdd.csv

項目	説明	備考
Start Date	開始日	授業実施日は開講部局毎に設定された授業日程表（休講候補日データ）より該当曜日の14回分（通年科目の場合28回分）の日程が出力されます。
Start Time	開始時間	
End Date	終了日	
End Time	終了時間	
Description	説明	“授業”固定
Subject	件名	科目名
Location	場所	教室名

●京都大学教職員グループウェア（Garoon）への取込方法

画面右上のアカウント名から

個人設定>各アプリケーションの設定>スケジュール>スケジュールの読み込み

※“文字コード”は「ユニコード（UTF-8）」、「先頭行をスキップする」で「はい」を選択してください。



【注意事項】

「CSVファイルからのスケジュール読み込み」は、追加登録のみとなります。

同一ファイルを複数回読み込んだ場合は、スケジュールが重複して登録されますので、ご注意願います。スケジュール読み込み後の休講、補講情報の反映は、Garoon上で個別に修正してください。

（教育推進・学生支援部 教務企画課教育情報推進室）

ハウジングサービス利用申請の電子化の取り組みについて

情報環境機構では、学術情報メディアセンター北館のデータセンター設備を用いて、部局等が保有するサーバ等の機器を安定した環境に設置するための「ハウジングサービス」を提供しています。これまで、ハウジングサービスの利用申請には、「紙の申請書」に「押印」した書類を御提出いただいておりましたが、2021年2月より教職員グループウェア (Garoon) のワークフロー(電子決裁)機能を用いた「電子申請方式」に変更しました。本稿では、変更した経緯とその内容について紹介します。

電子化の経緯

ハウジングサービスでは、設置スペースや電源設備、情報コンセントの利用に必要な費用を利用者の方に御負担いただいております。サービスの利用者と予算を管理する経理担当者のそれぞれの押印により、申請の意思確認としていました。

しかし、昨今のコロナ禍においては、テレワークの実施によって部局内の手続きが従来よりも円滑には進まない状況もあり、この機会に押印処理が不要となるよう申請手続きの改善に取り組みました。検討の結果、高額な負担金が必要なサービスであることから、意思確認は省略できないと判断し、押印処理の代わりにGaroonのワークフロー機能を用いて、関係者の承認を得ることで申請の電子化を実現しました。

Garoonのワークフロー機能

「電子申請フォームの作成」というと難しく感じる方もいらっしゃると思いますが、Garoonのワークフロー機能では、テキストエリアや選択画面などを組み合わせることで、図1のような申請フォームを簡単に作成することができます。

また、申請内容によって承認者を追加する必要がある場合は、申請受付時に担当者が追加で承認を依頼したい利用者等をすべての教職員アカウント(以下「SPS-ID」という。)から検索して承認ルートに追加することができます。加えて、ワークフローで申請されたデータは、CSV形式でダウンロードすることができるため、Excelやスプレッドシートなどに取り込み、申請状況の統計処理やデータの抽出、加工を容易に行うことが可能です。

なお、申請データについては、暗号化された状態で4重のバックアップがサイボウズ株式会社によって取得されています。これにより、教職員グループウェアにGaroonが採用されている間は、明示的に申請データを削除しない限り、承認記録を含む申請データの閲覧ならびに印刷が可能です。

申請種別*

(選んでください)

- ・ハウジングサービス 新規/継続申請：
新規利用開始、前年度からの継続利用、ラックや電源等のサービス内容を追加する場合に選択してください。
なお、同一財源の場合に限り、複数の継続申請を一本化していただくことも可能です。
- ・ハウジングサービス 変更申請：
利用者、連絡担当者、経理担当者、支払費目を変更する場合に選択してください。

識別番号*

(** 申請時の記入が許可されていません **)

既存申請の識別番号

備考

中略

規程・規約への同意*

同意する *

「京都大学情報環境機構データセンター情報サービス利用及び利用負担金規程」に基づきハウジングサービスの利用を申請します。利用するにあたり、同規程と「ハウジングサービス利用規則」を利用者に遵守させることを誓約します。

入力完了したら、「経路を設定する」を押下して次へ進んで下さい。なお、次のページの経路の設定では、特に編集いただく項目はありませんので、ページ下部の「内容を確認する」を押下して次に進んでください。

経路を設定する >> 下書きとして保存する キャンセルする

図 1: ハウジングサービス 利用申請フォーム

電子申請の設計

ハウジングサービスは、学内の部局から広く申請を受け付けていますので、SPS-IDを持つすべての教職員が申請可能な設計としました。申請の流れは図2のように設計し、最初の承認者をハウジングサービスの申請窓口を設定しました。受付窓口はGaroonの通知で申請があったことを認識し、申請内容に不備が無いかを確認後、利用者と経理担当者を承認者に追加し、利用者と経理担当者に承認作業を実施いただく流れとなっています。また、申請者が利用者と同一であれば利用者の承認は省略するなど、承認フローの調整を申請窓口で行うことにより、申請者がワークフロー機能に不慣れでも対応しやすいよう考慮しました。これにより、紙の申請時と同様に利用者と経理担当者の意思確認の仕組みを実現できたと考えています。

なお、ワークフロー機能では承認依頼をした教職員に対し自動的にメール等で通知をすることはできませんが、未処理の承認依頼がある場合はGaroonの通知欄に表示されます。このため、就業打刻や在室時間登録などで、Garoonに1日1回はアクセスすると考えており、メール通知がなくとも承認処理は進むのではないかと考えています。もし、Garoonの通知欄に気付かず、承認待ちの状態から進まない場合は、補助的に別途メール通知を担当者が行うことで、円滑な承認処理を実現できると考えています。

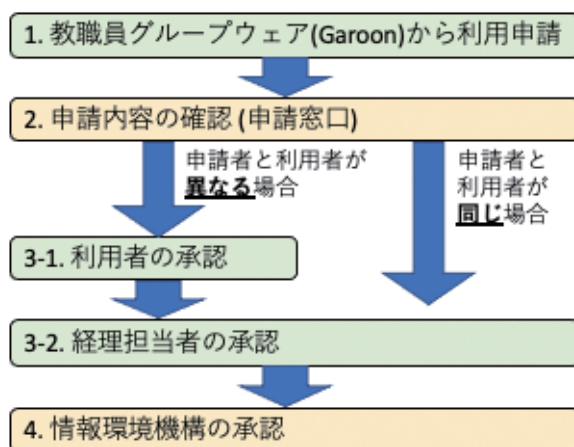


図 2: 申請の流れ

おわりに

SPS-IDを持つ教職員は、Garoonのワークフロー機能を利用できますので、コロナ禍を機に申請処理や決裁処理の「電子化」を進めてみてはいかがでしょうか。

※ワークフローマニュアル

教職員グループウェア (Garoon) の [マニュアル・FAQ] 内

教職員グループウェアマニュアル > 操作マニュアル > マニュアル_12_ワークフロー

<https://ku1.cybozu.com/g/cabinet/view.csp?fid=71033>

(當山 達也: 情報環境機構 研究支援部門/企画・情報部 情報基盤課)

サービス紹介

WEBホスティングサービス・タイプSの利用者からの声

「Info!」第19号でお知らせしましたように、2020年4月から、民間事業者のクラウドサービス（さくらのレンタルサーバ）を利用したWEBホスティングサービス・タイプSの提供を開始しました。2021年2月の時点で既に、650件以上の利用を申請していただいております。

今回、利用者の声として、ウイルス・再生医科学研究所総務掛の下司和彦さんと研究推進部産官学連携課知的財産・財務掛の池田健二さんに本サービスのメリット・デメリットなど、利用した感想を寄せていただきましたので、紹介させていただきます。

ウイルス・再生医科学研究所総務掛 下司和彦さんの声

部局のITを支援する技術職員として、WEBホスティングサービスタイプSの感想を述べさせていただきます。

メリットとしては2つ感じられます。

- タイプKでは、WEBサイトのコンテンツをアップロードするためにパソコンにツールを導入する必要がありましたが、その手順で躓かれる利用者が多くいました。
タイプSではコンテンツのアップロード方法が変わり、サービスが提供するコントロールパネルにアクセスすると、ブラウザ上からコンテンツの編集が行えるようになりました。これによりWEBサイト作成の敷居が下がったと感じられます。
なお、従来と同様のツールを利用してのWEBサイト作成を行うことも可能です。
- PHPやPerlといったスクリプト言語の新しいバージョンを利用したい場合には、タイプKでは情報環境機構からの提供を待つ必要がありました。提供を待つ間、わざわざWEBサイトがPHPやPerlの古いバージョンで動作するように作成する必要があり、このことを不自由に感じておりました。
これに対してタイプSでは、コントロールパネル上から利用者の任意のタイミングでスクリプト言語のバージョンを変更できるようになりました。情報環境機構からのサーバの提供を待つ必要がなくなったため、より自由な運用が可能になったと感じます。

PHPのバージョン

現在の設定	7.4.14 (モジュールモード)
設定	変更しない
モード	変更しない
	PHP7.4 [推奨]
	PHP7.3 [非推奨] 2021/11 提供終了予定
	PHP5.6 [非推奨] サポート終了
	PHP5.4 [非推奨] サポート終了
	PHP5.3 [非推奨] サポート終了
	PHP5.2 [非推奨] サポート終了

⚠️ ご注意

- 動作不良等がなければ「モジュールモード」に変更してください。
- PHPバージョン変更の動作確認に必ず従ってください。
- 旧バージョンを使用する特別な事終了しているため自己責任でご利用ください。また、提供を終了する場合がございます。
- PHP開発チームによるPHP 5.6、5.4、5.3、5.2のサポートは終了しています。(詳細 <http://jp2.php.net/manual/ja/appendices.php>)
- PHP4にてモジュールモードはご利用になれません。

一方で、デメリットは1つ感じられます。

- タイプSでは学外クラウドサービスにサーバが存在する関係で、情報環境機構提供の脆弱性診断システムが利用できなくなりました。その代替りとして、以下2つのいずれかを選択する必要があります。
 - ▶ 利用者又は部局において、独自に脆弱性診断システムを選定し運用ルールを決めて診断する。
この場合、脆弱性診断システムの選定や運用の手間が発生します。
 - ▶ クラウドコンピューティング掛が提供する脆弱性診断代行サービスを利用する。
この場合、利用者の任意のタイミングで診断を実施できなくなります。

以上のようにそれぞれ短所がありますので、タイプSについては脆弱性診断のあり方を各部局で検討した方が良いと思います。

全体として、タイプSでは学外クラウドサービスに移行したことで使い勝手が大きく変わったと感じます。

既存の利用者は慣れるまでは戸惑うことがあるかもしれませんが、メリットに書いたように利用者からの利便性が向上しているため、新規利用者にとっては、より便利なサービスになったと思います。

研究推進部産官学連携課知的財産・財務掛 池田健二さんの声

産官学連携課では、管理しているWebサイトのうち、7つのサイトでWEBホスティングサービス・タイプS（スタンダード）を利用しています。うち6つはタイプKから移行したもので、残り1つは構築時点からタイプSを利用しています。

タイプSでは、さくらインターネット社から提供される「サーバコントロールパネル」と呼ばれるサーバ管理用のWebページが、Webサイトごと用意されます(図1)。このコントロールパネルから様々な設定ができることがタイプSを利用するメリットのひとつであると考えています。

コントロールパネルはさくらインターネット社のレンタルサーバすべてに共通したツールであるため、コントロールパネルへのログイン情報をWebサイトの保守業者と共有することで、WordPressの保守と合わせてサーバの保守もお願いしやすくなっています。

コントロールパネルからは、PHPのスクリプト設定や簡単なアクセス解析を行うこともできます。それらの解説ページがさくらインターネット社のサイトで公開されているため、手軽に安心して利用することができます。また、コントロールパネルから、セキュリティに関する設定を行うこともできます。WebサイトのSSL設定として、無料SSLであるLet's Encryptの設定が可能です(図2)。これを利用すれば、これまで費用や手間の観点からSSLに対応していなかったWebサイトについても簡単にSSL化することができるため、いくつかのWebサイトでSSL化の検討を行っています。さらに、Webサイトのファイアウォールについても設定が可能です。コントロールパネルからファイアウォールの有効/無効を簡単に切り替えることができます(図3)。しかし、ファイアウォールの制限が強すぎるために、単純なWordPressの編集操作がエラーとなってしまう場合がありますので、お気をつけください。その場合には一時的にファイアウォールを無効にしてから編集操作を行うことでエラーを回避できます。

また、情報環境機構では、タイプSを利用したWebサイトについて脆弱性診断を代行するというサービスを行っています。これにより、サーバ管理者の作業負担を減らすことができます。当課では、7つのWebサイトすべてについて診断代行をお願いしました。

タイプSを利用すると、学外企業が提供するシステムとサービスを利用することになりますので、学内システムのときのようなきめ細やかなサポートは受けづらいかもしれません。しかし、それを補って余りあるメリットがタイプSにはあると考えています。

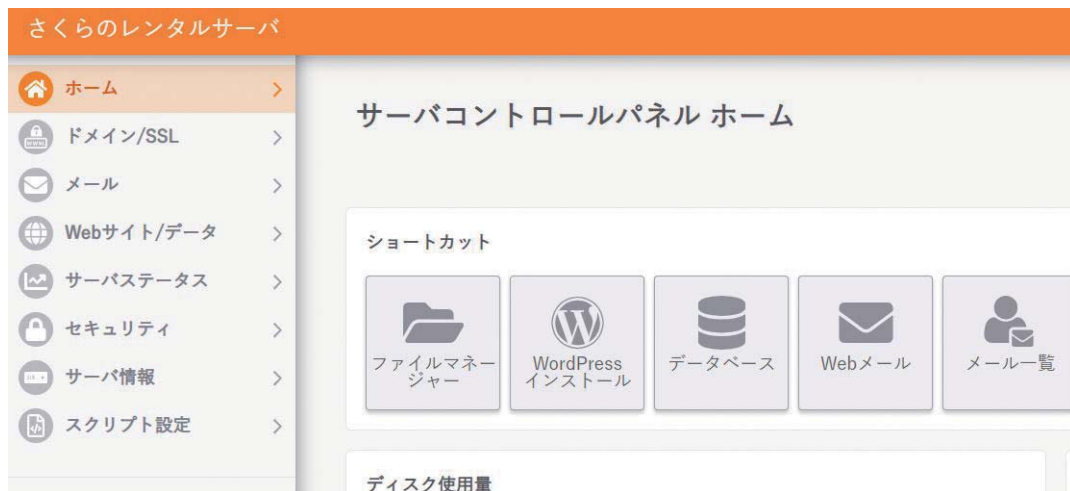


図1:サーバコントロールパネルホーム画面

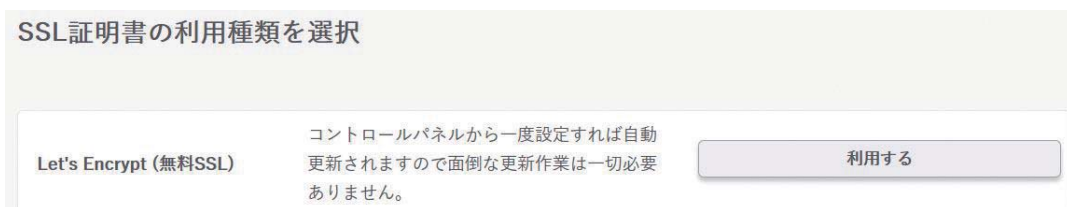


図2:SSLの設定



図3:ファイアウォールの設定

WEBホスティングサービス・タイプSは、民間事業者のクラウドサービスを利用したサービスですので、これまでとは違う観点でメリット・デメリットがありますが、概ね従来のサービスよりおススメできるサービスとなっていますので、是非、ご利用をご検討ください。

(赤坂浩一:情報環境機構IT企画室/企画・情報部 情報基盤課研究情報主査)

大学ICT推進協議会(AXIES)2020年度年次大会に出展しました

情報環境機構では、2020年12月9日(水)から11日(金)にかけてオンラインで開催されました大学ICT推進協議会(AXIES)2020年度年次大会に参加、出展しました。

大学ICT推進協議会とは

大学ICT推進協議会(AXIES: Academic eXchange for Information Environment and Strategy)は「高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与する」ことを目的として設立された組織です。2021年3月1日時点で135の大学や研究機関及び78の企業が加入し、14部会(CIO部会、ITベンチマーキング部会、情報教育部会、オープンソース技術部会、学術・教育コンテンツ共有流通部会、ソフトウェアライセンス部会、認証基盤部会、クラウド部会、ICT利活用調査部会、教育技術開発部会、高品質・セキュリティICT部会、研究データマネジメント部会、ORCID部会、ユーザーコミュニケーション部会)で構成され活動を行っています。

初のオンライン年次大会

年次大会は年に1回、12月中旬に開催されており、会員や国内の高等教育・学術研究機関間で各種専門的情報の提供と交換が行われます。例年、会期中には展示会、企画セッション、一般セッション、ポスターセッションなどが催されます。しかし今年は展示会等のプログラムの種別は変わらないものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため初のオンライン開催となりました。その結果、参加者は800名程度となり大会として盛況を呈する規模の参加があったものの、昨年の1,300名からは減少が見られました。また、展示会では情報環境機構を含めた54の企業・大学等のブースが出展されました。

オンライン開催環境

初のオンライン開催となる今大会では、ウェブサイト上の「展示ブース」(図1)となるページに展示内容となる動画やPDF等の資料が公開されました。また発表やコミュニケーションには「Webex Events」または「Webex Meetings」が、情報交換会には「Remo」が利用されました。さらにRemo上で名刺交換サービスの「Eight」を利用して名刺交換を行うなど、複数のツールが活用されました。



図1 展示ブース(イメージ)

基調講演

今大会では次の基調講演が行われました。

1. From Days to Months: Higher Education, IT, and a Pandemic (数日で決断、あれから数カ月—高等教育、IT、パンデミック) (EDUCAUSE Board チェア、Michele Norin 氏)
2. コロナ禍のオンライン授業からみる教育のデジタル変革(東北大学データ駆動科学・AI 教育研究センター長 (教授)、早川美徳氏)

出展内容

情報環境機構は、「京都大学におけるオンライン授業・テレワーク環境・多要素認証」(図2)と題して、コロナ禍における教育活動や業務の対応状況について紹介しました。



図2 出展された資料(抜粋)

期間中の集計結果として、展示ブースのページビュー数は84でした。一方で、チャットルーム (Webex Meetings) まで訪れていただいた学外の方は2名でした。例年の展示ブースにはもっと多くの方に立ち寄っていただき情報交換を行っていますので、オンライン開催の影響があったと考えられます。参加した方からは「誰がチャットルームにいるか分からない状況では気軽に入ることも難しい」といった意見も聞かれました。

おわりに

今大会は初のオンライン開催となり運営の事務局も大変ご苦労されたかと推察されますが、参加者の中には初めてのツールに戸惑う方もいらっしゃいました。それでも今大会はコロナ禍を契機にICTの重要性が益々高まっていることが分かる内容となりました。2021年度の年次大会は幕張メッセ国際会議場での開催が予定されています。次回大会が部分的にでもオンラインとなるのか現時点では分かりませんが、今大会の経験が活かされることを期待しております。

最後に、AXIESでは展示以外に企画セッションや一般セッション、出展者セミナーがあり、大学ICTに関する様々なテーマでの発表があります。大学ICTや、その研究・教育での活用に関心のある方は是非ご参加頂ければと思います。

AXIES 年次大会 URL : <https://axies.jp/conf/>

(小野英理:情報環境機構システム・デザイン部門 特定講師)

京都大学全学情報システム利用者 パスワードガイドラインの改定について

京都大学全学情報システム利用者パスワードガイドラインは2010年から施行され、2014年にパスワードの長さについて最低限6文字以上から最低限8文字以上の長さを持つよう改定されました。この度、2021年に**最低限12文字以上の長さを持つよう更なる改定**を行いますのでご案内します。

Info!19号「教職員アカウント(SPS-ID)のパスワード見直しのお願い」の中でもご紹介いたしましたとおり、パスワードの推測（辞書攻撃や総当たり攻撃など）にもコンピュータが利用されますが、時代とともにコンピュータの性能が上がっていくため、その対策として、パスワードも時代とともにより長いもの、より複雑なものを利用する必要があります。

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が2013年に公開した「情報漏えいを防ぐためのモバイルデバイス等設定マニュアル」において「パスワード解読の想定コスト例」が示されており、列を整理してわかりやすく改定したものを以下の表に示します。

たとえ英小文字、数字のみのパスワードであったとしても、12文字以上の場合※1）、英大文字・小文字、数字、記号を組み合わせた8文字のパスワード※2）よりも計算コストは数百倍かかると推測されており、パスワード強度を上げるにはパスワードを長くすることが重要であることがわかります。

利用する文字種類数		パスワード長		
種類数	種類	8文字	12文字	16文字
10種	数字のみ	計算量： $2^{26.6}$ (1円未満)	計算量： $2^{39.9}$ (約35円)	計算量： $2^{53.2}$ (約35万円)
36種	数字+英字(小文字のみ)	計算量： $2^{41.4}$ (約100円)	計算量： $2^{62.0}$ (約1.65億円) ※1	計算量： $2^{82.7}$ (約276兆円)
62種	数字+英字	計算量： $2^{47.6}$ (約7,500円)	計算量： $2^{71.5}$ (約1,120億円)	計算量： $2^{95.3}$ (約165京円)
94種	数字+英字+記号	計算量： $2^{52.4}$ (約21万円) ※2	計算量： $2^{78.7}$ (約16.5兆円)	計算量： $2^{104.9}$ (約129,000京円)

(内)は全数探索でDESを1日で解読するために必要な当時の計算資源を約250万円と仮定した参考金額

最後に安全なパスワードの作り方の一例をご紹介します。
いくつかの「パーツ」を組み合わせると長くし、その「作り方」を覚えましょう。

作り方	好きな食べ物+好きな数字+好きな動物(区切りに記号を使用)
パスワードの例	Mik@n#1224#Nek0 (15文字)

※Info!19号の例に辞書攻撃対策として文字の置き換えも加えています。

(戸田 庸介：情報環境機構IT企画室／企画・情報部情報基盤課セキュリティ対策掛長)

2021年度「新入生ガイダンス」実施案内

目的

京都大学での新しい勉学・研究生活をスムーズにスタートしていただけるよう、新たに入学された方を対象に、新入学学部生には、全学機構並びに国際高等教育院が共同し「新入生ガイダンス(ライブ、オンデマンド配信)」を、新入学大学院生・留学生には「全学機構ガイダンス(オンデマンド配信)」を実施します。

両ガイダンスともに、京都大学学習支援システム「PandA(パンダ)」による動画配信により実施します

【新入学学部生】

国際高等教育院並びに全学機構では、下記の要領で、全学共通科目の学び方やキャンパスライフ等について入学式直前に新入生全員を対象とした「新入生ガイダンス」を実施します。

このガイダンスは、「ガイダンス<ライブ配信>」(学部・学科別に3日間に分けてオンラインの同時配信で行われ、AED講習を含むもの)と、「ガイダンス<オンデマンド配信>」(各事項についての詳細な説明を収録した動画のオンデマンド配信で行われるもの)があります。両者は趣旨・内容が異なりますので、すべて受講してください。

◆ガイダンス<ライブ配信> (受講日時は学部・学科別に指定)

担当の教職員が生ので、全学共通科目の学習やキャンパスライフの注意事項について、皆さんに要点を説明します。

実施日程は、下記の通りです。ネットワークに接続した各自のパソコン等により、学部・学科別に指定された日時にPandAを使ってオンラインで受講してください。各日とも、学部・学科により、13時開始のグループ(AED講習→ガイダンスの順に受講)と14時開始のグループ(ガイダンス→AED講習の順に受講)とに分かれます。自分がどちらに属するかをよく確認の上、参加してください。

▶ ガイダンス<ライブ配信>の日程及び対象学部

4月2日(金): 理学部、医学部(医学科)、医学部(人間健康科学科)、薬学部、農学部

4月5日(月): 文学部、経済学部、教育学部、総合人間学部、法学部

4月6日(火): 工学部

▶ ガイダンス<ライブ配信>の時間と内容

【前半AED講習】 13:00～

【第一部】 14:00～

京都大学の教育、全学共通科目の履修・KULASISの利用について、英語教育について、留学について、データ科学を学ぶ

【第二部】 14:40 前後～

情報環境: ネットワークの利用とセキュリティ、図書館の利用、安全なキャンパスライフを送るために

【後半AED講習】 15:10～

*AED講習の受講について…人が倒れ命を救うために必要な術、胸骨圧迫とAEDの使い方を体験して学んでもらいます。講習の途中には自己紹介の時間も設けています。

▶ ガイダンス<ライブ配信>の受講方法

学部・学科別に指定された日時にPandAに各自アクセスし、「新入生ガイダンス(学部生向・2021年度)」を選択することになります。受講可能な学部や受講時間など、詳細は下記URLにアクセスください。

URL: <https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/freshman-guide/schedule/guidance>

◆ガイダンス<オンデマンド配信> (期間中いつでも視聴可能)

「ガイダンス<オンデマンド配信>」は、「ガイダンス<ライブ配信>」とは趣旨・内容が異なるものですので、こちらも必ず受講してください。こちらも、各自のパソコン等を用いてオンラインで受講していただきますが、期間中

であればいつでも視聴可能です。

➤ ガイダンス<オンデマンド配信>の内容

【全学共通科目について】

全学共通科目の履修・KULASIS の利用について、英語教育について、留学について、データ科学を学ぶ

【キャンパスライフについて】

人権・コンプライアンス、情報環境：ネットワークの利用とセキュリティ、図書館の利用、安全なキャンパスライフを送るために

➤ ガイダンス<オンデマンド配信>の受講方法

各自PandA にログイン後、「新入生ガイダンス (学部生向・2021 年度)」のコースを選択し、そこに掲載しているガイダンスの動画を視聴してください。なお、PandAへのログインには、各自のECS-IDが必要です。

3月29日(月)～4月7日(水)の間に受講のうえ、指示に従って受講確認を行ってください。

URL : <https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/freshman-guide/schedule/guidance>

期間中は、日時を問わず視聴できます。ただし、4月2日(金)より人数制限科目等の抽選が始まります。抽選方法等はKULASIS をご確認ください。

【新入学大学院生・留学生向け】

このガイダンスでは、大学院や留学後の勉学・研究生活をスムーズにスタートしていただくため、大学でのネットワーク利用、コンピュータウイルス対策等の情報セキュリティ対策、研究論文検索等での図書館利用法、健康管理、エコ生活等、キャンパスライフに関わる大切な話をしています。

各自PandAにログイン後、「全学機構ガイダンス (院生・履修生向2021年度)」のコースを選択し、そこに掲載しているガイダンス動画を視聴してください。

4月1日(木)から4月30日(金)の間に受講のうえ、指示に従って受講確認してください。

なお、PandAへのログインには、各自のECS-IDが必要です。

URL : http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/whatsnew/event/210218_login-to-panda_insei.pdf

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/services/ecs/pdf/chapter9.pdf>

➤ ガイダンス<オンデマンド配信>の内容

◇ 情報環境：ネットワークの利用とセキュリティ

京都大学の情報環境がどういうものか、どんなことができるのか、利用する上でどういうことに注意が必要なのか、情報環境を利用するための学生アカウント (ECS-ID) に関する注意事項など、包括的にお伝えします。

◇ 環境安全保健機構：環境・安全・保健

大学生活が事故や健康障害によって台無しにならないよう、本学の事故の傾向やその対策、実験中の安全対策、京都大学のエコに対する取り組みなどについてお伝えします。

◇ 図書館機構：図書館の利用

図書館が提供している電子ジャーナル、データベース、電子ブックなど電子リソースの適正な利用方法と注意点をはじめ、図書館の利用全般についてお伝えします。

感染防止のため、各自PCからPandAにログインしての受講を強く推奨しますが、PC/ネットワーク環境を準備中の方、用意できずお困りの場合は、学術情報メディアセンター1階ICTコモンズ(共用PCエリア)にて視聴ください。

受講方法についての質問は、情報環境機構 情報環境支援センターまでお願いします。

2021年3月に卒業や修了、異動や退職時の 全学アカウント及び全学メールについて

京都大学で発行している全学アカウント(ECS-ID(学生アカウント)・SPS-ID(教職員アカウント))及び全学メール(KUMOI(学生用メール)・KUMail(教職員用メール))は、京都大学に籍がなくなれば利用できなくなります。

下記に、それぞれのケースによって必要な手続き及び実施いただく作業を記載しますので各自でご準備ください。

なお、2ページ目掲載の件に関連して、パスワード変更のお願いをメール等でお送りしているところですが、未変更の方におかれましては、至急パスワードの変更のご対応を重ねてお願いいたします。

■3月で卒業、修了、退学等される学生のみなさま

2021年3月31日までに以下の準備をしてください。

① 必要なファイルのバックアップ

教育用コンピュータシステムのPC端末やクラウドストレージ上に保存している必要なファイルを個人のPC等にバックアップしてください。教育用コンピュータシステムのPC端末に保存しているファイルは、PC端末にログインし、必要なファイルをUSBメモリに保存するか、クラウドストレージ経由でご自分のPC端末等にバックアップしてください。

また、クラウドストレージで共有しているファイルは、アカウントが停止すると共有している方もアクセスできなくなります。必要に応じて事前に共有ファイルの整理をしてください。

クラウドストレージについて：

URL：http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ecs/cloud_storage/

② 必要なメールのバックアップ

メールソフトを使う方法とGmailやHotMail等に取り込む方法があります。下記に掲載していますので、参考にしてください。

URL：http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/kumoi_Use/

③ メール転送設定

転送先を設定しておけば、KUMOIに届いたメールは、利用停止後1ヶ月(4月末まで)の間、転送先に転送されます。下記にアクセスのうえ転送設定してください。

京都大学全学アカウント管理>パスワードの変更・学生用メール(KUMOI)の転送設定変更

URL：<https://ecs.iimc.kyoto-u.ac.jp/>

④ 生涯メールアドレスの転送先設定の確認

正規学生の方には、生涯メールアドレスを発行しています。

生涯メールに関しては京都大学総務部渉外課にお問い合わせください。

京都大学同窓生向けサービス担当窓口

URL：http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/kuon_alumni/

⑤ その他

4月以降に利用されるメールアドレスを関係者に知らせておいてください。

■4月以降も京都大学に在籍するが、身分や所属が変更になる学生のみなさま

【学生区分で身分が変わる場合(学部生→院生、院生→研究生、研究生→院生など)】

同じECS-ID及びKUMOIアドレスをそのまま利用ください。この場合は、手続き不要です。

なお、ECS-IDの通知書を受け取られた方で、通知書にこれまでと異なるECS-IDが記載されている場合は、二重発行の可能性がありますので、情報環境支援センターまでご連絡ください。

【学術振興会特別研究員(PD)や非常勤講師、研修員などに身分が変わる場合】

ECS-IDの資格変更(継続)の手続きをすることで同じECS-IDとKUMOIアドレスが利用できます。

【京都大学の教職員(非常勤講師を除く)になられる場合】

京都大学の教職員には、SPS-ID(教職員アカウント)とKUMail(教職員用メール)アドレスが発行されますので、以降はそちらをお使いください。ECS-ID及びKUMOIアドレスは利用できなくなりますので、上述の「3月で卒業、修了、退学

される学生のみなさま」をご覧のうえご対応ください。

■ 異動、退職等をされる教職員(学外非常勤講師を除く)のみなさま

【学内での異動の場合】

学内異動の場合は、これまでと同じSPS-IDとKUMailアドレスをお使いください。手続きは不要です。

【退職、学外へ異動される場合】

京都大学を離籍されるとSPS-IDとKUMailアドレスは利用できなくなります。以下の準備をしてください。

① 必要なメールのバックアップ

SPS-IDが失効する前にメールを保存して、新しいメール環境に移行できるよう準備してください。

URL : https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/next_kumail/kumail_9.html

② メール転送設定

SPS-IDが失効する前に転送先メールアドレスが確定している場合は、メール転送の設定を行ってください。

KUMailアドレスに届いたメールは、退職後360日間は転送先アドレスに転送されます。もし、SPS-ID失効前に転送先メールアドレスが確定していない場合は、その旨記載のうえ「kumail-qa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp」までメールでご相談ください。

③ 生涯メールアドレスの転送先設定の確認

常勤教職員の方には、生涯メールアドレスを発行しています。

生涯メールに関しては京都大学総務部渉外課にお問い合わせください。

京都大学同窓生向けサービス担当窓口

URL : http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/kuon_alumni/

④ ネットワークのVLAN管理責任者やVM/WEBホスティングサービスの利用者になっておられる場合は、管理者等の変更手続きをお願いします。

下記から手続きをお願いします。

◆ネットワークのVLAN管理責任者等

教職員認証システム(グループウェア) > 業務リンク > ネットワーク申請等 > KUINS接続機器登録データベース

◆VM/WEBホスティングサービス利用者

VMもしくはWEBホスティングサービスの利用者として登録されている場合は、以下から変更手続きをお願いします。

URL : http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/whs/use/post_14.html

◆教育研究活動データベース(教員DB)利用者

教育研究活動データベースは、在職者のデータのみ公開しているため、退職されるとデータの閲覧やデータの書出しができなくなります。在職中に必要なデータの書出し・保存をお願いします。また、教育研究活動データベースは、JSTのresearchmapとも連携しています。researchmapに登録されている情報を引き続き利用できるよう、以下の点をご確認ください。

* URL : <https://researchmap.jp/> にログインし、「マイポータル」において登録している連絡先メールアドレスが、異動後であっても有効であることを確認してください。

* researchmap へのログイン方法、利用方法については、researchmap.jp のマニュアルページを参照ください。

⑤ Zoomアカウントの停止に関する確認

離籍に伴い、全学Zoomライセンスが付与されたZoomアカウントは停止されます。

該当するZoomアカウントが利用可能なのは3月末日までとなりますので、過去のミーティングのレポートやクラウド録画の保存が必要な場合はその間にバックアップをとってください。

■ お問い合わせ

IDやメールアドレスの取得・利用に関して不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

E-mail : support@iimc.kyoto-u.ac.jp

(情報環境支援センター)

グローバルIPアドレスって何？ KUINS-IIで注意すべきこと

本学では毎年情報セキュリティに関する自己点検を実施しています（京都大学情報セキュリティ対策基準第106条）。今年度は情報セキュリティ対策に係るKUINS-II接続機器の総点検を実施中ですが、非常に煩わしい点検作業がなぜ必要かについて考えていきたいと思います。

本学の学術情報ネットワークシステムはKUINS(Kyoto University Integrated information Network System)と呼称し、グローバルIPアドレスで構成される「KUINS-II」とプライベートIPアドレスで構成される「KUINS-III」から構成されています。一般的にグローバルIPアドレスは、インターネットサービスプロバイダ、電気通信事業者に割り当てられたものを契約に基づいて払い出してもらう形で利用しますが、本学には割り当てがあるために特殊な環境にあると言えます。

グローバルIPアドレスを持つということは、世界で重複しない一意のIPアドレスを使ってインターネットで自由に通信ができる一方で、世界中のコンピュータから攻撃を受ける可能性が出てきます。国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)のNICTER観測レポート2019によるとサイバー攻撃関連の通信は1 IPアドレス当たり1年間で約120万パケットになると試算されています。これは30秒に1回サイバー攻撃を受けるということになります。最新のアップデートを2, 3日適用できないと、その期間にサイバー攻撃によって脆弱性を悪用される可能性は十分にあるということを知っておく必要があります。

KUINSを利用するにはKUINS接続機器登録データベース(KUINSDB)への登録が必要ですが、KUINS-II接続機器の申請時に情報セキュリティに注意できているでしょうか。ホスト申請のIPアドレス欄の通信範囲の項目は最も重要なポイントで「学内通信」であれば、KUINSのフィルタリングで学外との通信ができないように設定されますが、「学外通信」の場合は、KUINSのフィルタリングは行いませんので、KUINS-II接続機器管理責任者がファイアウォールを設定するなどの情報セキュリティ対策を行う必要があります。

同様に「SMS登録」という申請項目も重要な項目です。SMSはSecure Mail Serverの略でスパム対策済メールサーバを表しています。通常、KUINS-II接続機器にはスパムメール中継の踏み台にされることを防止するために、学外から学内へのSMTP（ポート番号25）の通信が出来ないようにフィルタリングを実施しています。この項目を有効にしてメールサーバとして利用する場合は、フィルタリングを解除しますので、KUINS-II接続機器管理責任者がサーバにSPAMメールの送信に利用されない対策を行う必要があります。

KUINSDBのしくみをよく理解しないまま申請を行うケースや、十分な引継ぎがないままKUINS-II接続機器の管理者になるというケースもあると思いますが、30秒に1回攻撃が来ているグローバルIPアドレスを持つ機器の管理責任者となる手続きになりますのでご注意ください。サイバー攻撃からサーバを守るには、日々アップデート情報を確認し、システムのアップデートを行うことが必要です。この重要なアップデート作業を定期的を確認するために、自己点検や脆弱性診断を実施しておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

(戸田 庸介: 情報環境機構IT企画室／企画・情報部情報基盤課セキュリティ対策掛長)



京都大学情報環境機構
Institute for Information Management and Communication,
Kyoto University

編集・発行: 京都大学情報環境機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
Webサイト <http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/>

掲載記事に関するご質問やご意見・ご感想などありましたら、ぜひ下記までお寄せください。

【総合窓口】
情報環境支援センター
E-mail: support@iimc.kyoto-u.ac.jp